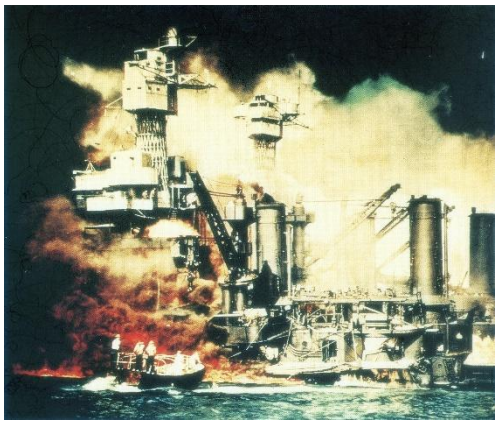
アジア・太平洋戦争の開始

マレー半島と真珠湾への奇襲攻撃

写真右　日本軍の真珠湾攻撃で燃え上がる
写真左　マレー半島、コタバルへ上陸する
（写真は『語り伝えるアジア・太平洋戦争』新日本出版社より）



2 つの奇襲攻撃は国際法違反

1941 年 12 月 8 日午前 2 時(日本時間) 日本陸軍の部隊が、イギリス領マレー半島のコタバルへ上陸作戦を開始しました。つづく午前 3 時には、アメリカ領ハワイの真珠湾に、日本海軍の機動部隊(空母を中心とした艦隊)から発進した 180 機の航空機が空襲をはじめました。こうして日本は、 米・英にたいするアジア太平洋戦争をはじめました。

マレー上陸作戦は成功し、真珠湾攻撃では、アメリカ太平洋艦隊の戦艦 4 隻をしずめ、航空機 188 機を破壊するという大戦果をあげました。しかし、この 2 つの奇襲攻撃は、国際法に違反する行為でした。1907 年に締結された 「開戦に関する条約」 (日本も調印)は、戦闘行動に入るまえに、相手国に宣戦布告すると義務づけていました。日本は、宣戦布告なしに 2 つの奇襲攻撃をはじめてしまったのです。

この「だまし討ち」はアメリカ国民の対日戦での結束を一気に高めることになりました。

「対米通牒(覚書)」とは?

真珠湾攻撃は「ワシントンの日本大使館のミスで宣戦布告が遅れた」と説明されることが多いのですが、渡すはずだった日本の「通牒(覚書)」の内容は、 宣戦布告ではなく、日米交渉の打ち切りを一方的に宣言しただけで戦争を開始するなどはどこにも書かれていません。だから仮に事前にアメリカに手渡したとしても、宣戦布告の義務に違反するものでした。さらに、イギリスとの間では、事前の外交交渉すらなく、いきなりマレーに奇襲攻撃ですから、 違法性はいっそう明白でした。結局、奇襲攻撃を重視する軍部の意のままに、開戦に踏み込んだ結果でした。

真珠湾攻撃を指揮した連合艦隊司令長官　山本五十六

真珠湾攻撃を指揮した連合艦隊司令長官は新潟県長岡市出身の山本五十六でした。

山本は、長岡藩士高野貞吉の 6 男に生まれ、33 歳で元長岡藩士山本帯刀の養子となり、山本姓となる。山本は、長岡中学卒業後、海軍兵学校、海軍大学校に進み、米国駐在武官、在米日本大使館付武官に任命され、ハーバード大学に留学。米国の産業発展の状況を視察。52 歳で海軍航空本部長、53 歳で海軍次官、56 歳で連合艦隊司令長官、57 歳で海軍大将。58 歳で真珠湾攻撃、59 歳ミッドウェー海戦、ソロモン海戦を指揮、60 歳前線視察の途中、米軍機に撃墜され、戦死。死後、元帥に、山本家の菩提寺 曹洞宗長興寺へ分骨 埋葬。